



## 主張

# 新型コロナウイルス感染症拡大を乗り越え、 急速な変革へ対応するために

平井 邦明

新しい年を迎えました。全国の会員の皆様、明けましておめでとうございます。

依然として新型コロナウイルス感染症への対応が続いていますが、「何ができるか。」と  
考え、必死になって取り組んできたことが、今では「コロナ禍での産物」と思えるよう  
もなりました。苦しい状況の中での取組にも大きな価値があったと実感しています。

さて、昨年十月十九日から二十一日の三日間にわたり、第七三回全日本中学校長会研究  
協議会が北海道札幌市で開催されました。新型コロナウイルスの感染状況が見通せない中  
で「現地参集型」から「オンライン形式」へと変更になりましたが、北海道中学校長会並  
びに札幌市中学校長会の皆様には、昨年度の静岡大会での成果と課題を踏まえて着実に準  
備を進めていただきました。大会実行委員長の野崎均様、大会運営委員長の富川浩様をは  
じめ、全ての関係者の皆様にあらためて感謝申し上げます。

開会式。多くの来賓の皆様より祝辞をいただきました。その祝辞を、コロナ禍にある中、  
「生徒が満足感や充実感を得られるように」「学びを止めないように」と奮闘する教員、そ  
して、「令和の日本型学校教育」を実現するために、より一層のリーダーシップを発揮し  
なくてはならない校長へのエールと受け止めました。



全体協議会では、教育研究部が毎年度実施している調査の経年変化を基にした全日中提案と、伝統文化である歌舞伎「勸進帳」の継承を通じた人材育成についての地区提案が行われました。午後の分科会では、各研究題について、校長としての学校経営の視点を踏まえた各地区からの実践事例の報告・提案を基に、ブレイクアウトルームを活用しての協議を行いました。今年度、参集型で開催された「東海・北陸地区」「九州・沖縄地区」の研究大会と同様に熱い分科会協議となりました。翌日のアトラクションは、アイヌ文化表現集団「アイヌ・アート・プロジェクト」の皆さんによる演奏でした。アイヌの伝統楽器であるムックリ（口琴）やトンコリ（五弦琴）を用いた演奏、更にエレキギターなどを加えた音楽を通して、「自然との共生」を基本的な考え方とするアイヌの心を感じることで、きる時間となりました。昨年度に続いての「オンライン形式」での全国大会となりましたが、参加した皆様の高い意識によって「校長としての学び」は確実に深まったと実感しています。来年度の第七四回大分大会は、理事会において「現地参集型での実施」が提案・承認されましたが、新たな感染症の発生など、全日本中学校長会としても不測の事態への対応策を確立できた北海道（札幌）大会となりました。

中央教育審議会の「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）によって全面実施から二年を迎える学習指導要領が具体化されるとともに、現在、様々な改革が進み、学校教育には急速な変革が求められています。全日中新教育ビジョンの下、全国の会員が緊密な協調を図るとともに、英知を結集し、着実に取組を進めて行くことが大切であると考えております。今年も御協力のほど、よろしくお願いいたします。

（全日本中学校長会会長・台東区立忍岡中学校長）